

平成19年7月1日  
(2007)  
第74号  
毎月発行  
編集  
公民館だより編集室  
発行  
西東京市公民館

# 西東京市 公民館だより

田無公民館  
南町5-6-11  
TEL 461-1170  
芝久保公民館  
芝久保町5-4-48  
TEL 461-9825  
谷戸公民館  
谷戸町1-17-2  
TEL 421-3855

保谷公民館  
柳沢1-15-1  
TEL 464-8211  
住吉公民館  
住吉町6-1-25  
TEL 421-1125  
ひばりが丘公民館  
ひばりが丘2-3-4  
TEL 424-3011

## 公民館の再発見 —今の時代に、地域に必要な 拠りどころ

さまざまな情勢を背景に、今、公民館の役割をどのようにとらえたいのでしょうか。社会教育の現代的意義はどこにあるのでしょうか。公民館運営審議会委員で社会教育研究者の上田幸夫さんに、原稿を寄せていただきました。

上田 幸夫

私の住み慣れた街に長く続いた小さな飲み屋が、店をたたおことになりました。店主は87歳という高齢の女性でしたが、料理、もてなしは上等で、多くの客に親しまれてきました。けれども、閉店で客との関係は途絶え、仕事一途に人生を歩み続けてきたその女性のもとには、こくわすかな蓄え以外に何も残っておりませんでした。そのうえ、身寄りがなく、途方に暮れてしまいました。

仕事一途の人生であったその女性は、店以外のことは無頓着で、役所など公共機関を活用する術は、ほとんどもっていません。長い年月、税金を払い続けていても、公共サービスを享受することなど、考えもしなかったのです。地域の人たちのつきあいのなかで、こうした社会生活上の知恵や技術の乏しい人が、少なくないのではないかと思いつけられていました。

身寄りがないその女性に馴染みの私は、相談を受けることになりました。そして、一緒に考えて考え、打開策を探りあげました。それこそ小さな、小さな人のかかわりですが、そこには「共同学習」が生まれているともいえます。90近いその方には、新

しい発見がいっつもあり、また、その人の生き方から、私も学ぶことが少なくありませんでした。

☆

公民館には、そういう関係づくりを形成していく大事な役割があります。またそれをおして、公民館は生活課題の解決を図っていくうえで必要な知恵と工夫を身につける機会を提供しているのです。こう考えれば、相談に乗って考えあつた私の位置こそ、公民館職員の役割ということになります。

公民館では、生活上の問題を解決していくために必要な知恵や技術を身につけていくために人間関係を広げていく取り組みが展開されています。そして、こういう公民館の基本的な役割は、公民館が誕生したころから明確に位置づけられていました。

☆

公民館が誕生した60年ほど前、その普及を図るため、文字通り「公民館の歌」という歌が作られました。歌詞が公募され、最優秀の作品に曲がつけられて、公民館の役割を全国に普及しようとしたわけです。その歌詞のなかには、「公民館のついでいからとけあつてなごやかに」とか、「公民館のついでいから希望を胸に美しい」、あるいは「公民館の

ついでいからまじいになごむひととき」という歌詞があります。つまり、公民館の役割を「ついでい」というように、簡潔な表現で伝えています。

☆

「ついでい」とも、「この歌は「平和の春にあたらしく郷土を興すよるこび」というように、平和を希求する新日本建設の原動力として登場してきたことがうかがえます。

公民館の誕生と同じ時期、憲法が公布され、その普及・定着の基本的な教育の力が期待されたように、公民館への期待は大きいものがありました。憲法を生活のなかに広め、普及していくために、大きな役割を担うことになっていくのです。つまり、地域の人々の「ついでい」をとおして、「公民(Citizen)」、すなわち市民的教養、あるいは政治的教養を身につけていく気概が目指されたのです。

公民館を提唱した当時の文部省の寺中作雄が公民館の建設を推奨して、「まさに民主主義の基盤の上に、平和国家・文化国家として立つこと、それを除いては日本の起き上がるべき方途はない。だがわれわれは連合国から迫られてやむを得ず文化国家

として立つのだと考えてはならない。戦いに敗れた結果、仕方なく民主主義になるのだと思つてはならない」「誰に勧められなくとも、何国に強制されなくとも、われわれは当然にみずから進んで平和と文化の道をとるべきであったのである」ことを表明しています。

公民館こそ、敗戦日本を民主主義的に再建するための原動力と説いた思いを、改憲など話題になるなかで、あらためて思い起こしています。いまさら公民館なんて、という思いを抱く市民の方には、もう一度、公民館の役割を再認識する機会を持つていただくといいかもしれません。

豪華なランプスタンド、愛らしい顔をした小さなお地蔵さん達の中には美術館にも飾られていないような翁像や役行者像もあります。どれも素人の手によるものとは思えない本格的な物。会員の人がこの日のためにわざわざ持参してくれた自作の数々です。この会は発足して30年目を迎えます。現在会員は女性6人男性2人の計8人。保谷公民館で毎週水曜日の午後活動しています。

## サークル訪問 ～木彫りの会～

昼下がりの保谷公民館の工作室。所狭しとばかりに置かれた木彫りの作品が取材陣を迎えにくれました。

製作中の現場は終始和やかにぎやが。冗談も飛び交い笑い声が絶えません。それとは対照的に作品を見つめる目は真剣で彫刻刀を握る手は力強く一定のリズムを保っています。

会員の一人がふと手を止めて迷っていると、同じく会員の小林さんがさりげなくアドバイスをします。プロ並の腕前的小林さんは会のアドバイザー的な存在。この会では現在講師を置かず、会員同士が相談し合いながら作品を仕上げていきます。「木」への熱い想いと会員同士の楽しいおしゃべり、そんなところにも会が長く続いてきた秘訣があるのかもしれない。

紙などで木に写し取り、彫刻刀やノミで形作っていくのです。道端に無造作に積まれている木でも見過ごすことはできません。木片を見つけては、つい「どんな物が出るかしら」と思いを巡らせてしまいます。その魅力について尋ねました。「彫っている時は何も考えず、昼間のいやなことを全て忘れてしまふ。無我夢中になれる」「作りたいと思ったものを作り



連絡先 柴田 ☎463-0185